



目次 ◆ 診療科紹介(整形外科) ◆ 肝ガンと肝硬変 慢性肝炎について  
◆ 地域医療懇話会を開催

## 診療科紹介【整形外科】

## 整形外科手術用 Navigation System の導入

最近の自家用車には、カーナビ(Car Navigation)がついていて、目的地を入れると道案内をしてくれるので、以前のように地図を見たり、人に聞いたりして苦労して到着するようなことは少なくなってきました。カーナビゲーションシステムGPS(Global Positioning System)は電波を利用し、自分と地球の周りをまわっている複数の人工衛星との距離を測定し車の現在位置を地図にて表示するシステムです。

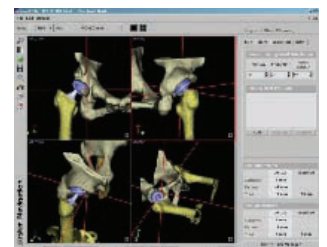
同様に整形外科の人工股関節置換術の際に、手術をする医者の道案内をしてくれるのが手術用の Navigation Systemです。術前にCT画像を元にした3次元的形態情報から computer 上で治療計画を立案し、手術中に骨格の位置を計測しながら、使用する器具を画面で誘導させる装置です。

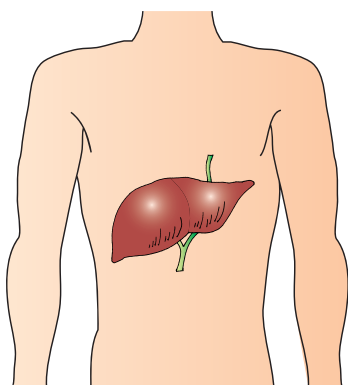
当院でも7月から大阪大学整形外科学教室及び運動器バイオマテリアル学教室の指導の下に Navigation System を採用しました。第三世代の精度が高く汎用性に優れた光学式を採用した装置(Stryker社製)で、手術器具から発せられる赤外線等特殊なセンサーカメラ(カーナビの人工衛星にあたる)で認識、その位置関係を computer で座標化し、あらかじめ入力されたCTやMRI画像上に器具の先端位置を誘導表示させるといったものです。術者が器具からリモコンで computer のソフトを起動・使用することができるため非常に利便性も高いシステムです。

こうした computer 手術の適応となる疾患の多くは変形性股関節症で、股関節の関節軟骨が変性・摩耗して痛みが生じます。原因を有さない1次性股関節症と、様々な疾患に起因する2次性股関節症があります。欧米では1次性が多くを占め、プロゴルファーのジャック・ニクラウスも人工股関節置換術を受けられ、術後もプレーを続けていました。日本では1次性はまれで、日本に多い2次性の原因は、先天性股関節脱臼や臼蓋形成不全が8～9割を占め、中年以降の女性に多くみられます。他には Perthes病、大腿骨頭壊死、股関節周囲の骨折等が原因となります。股関節周囲の疼痛や、脚長差や臀部の筋力低下による跛行が主たる症状です。若年者で、レントゲン上も股関節の損傷が軽度な場合には杖の使用や股関節周囲の筋トレなどによる保存的加療や、場合によっては関節を温存する骨切り術の適応となる場合もあります。しかし、痛みも強く、日常生活での制限(買い物に行けない、階段の上り降りがつらい)が大きく、レントゲンで関節軟骨が消失している様な場合には人工関節置換術の適応となります。

人工股関節置換術は、痛みを軽減し、日常生活の動作の改善には優れた効果がありますが、術後の人工関節の脱臼や使用しているプラスチックの摩耗の問題があります。しかし、Navigation System の導入により、個々の異なる股関節の形態に対して綿密な術前計画を立てることが可能となります。右の図は人工関節の手術を行った場合に股関節の動く範囲(関節可動域)がどれだけあるか、computerで計画しているところです。これに基づいて正確な手術を行うことで脱臼や緩み、異常摩耗を予防し、広い股関節の可動域の獲得や脚長差の補正ができ、その結果人工関節の寿命も伸ばすことが可能となります。手術中にリアルタイムに人工関節の設置位置や角度を計測することができるため、手術中に計測した角度と術後CT画像での計測値との差は1度以下で、脚長差は3mm程度にすることが可能となりました。

我々大阪船員保険病院職員一同、病院理念に沿い、患者さんの立場に立った適切な医療を提供するため、またより安全安心かつ正確な医療を行うため努力を続けておりますので、是非股関節の痛みのため日常生活でお困りの際はご相談ください。





大阪府は肝がんによる年間死亡者数が全国一位（3,014人:2006年）で、大阪市内においても単位人口あたりの肝がん死亡率は全国平均を大きく上回っています。この肝がん（肝細胞癌）の元になるのは多くの場合、慢性肝炎や肝硬変といった慢性の肝臓病です。肝臓病の原因となるものは飲酒や栄養過多（脂肪性肝炎）であったりする場合もありますが、大半はB型やC型の肝炎ウイルス（HBV、HCV）によります。

ウイルス性肝炎はわが国では300万人以上が感染していると考えられる病気ですが（右頁表1）、近年、肝炎ウイルス感染に対する治療を国の補助により推進し、肝がんや肝硬変に進むのを制する試みが行われております。そこで今回はこの「肝炎医療費助成制度」を中心に慢性肝炎の治療について説明したいと思います。

## B型肝炎

B型肝炎はB型肝炎ウイルス（HBV）が血液・体液を介して感染して起こる病気です。遺伝することはありませんが出産時の出血などで母親から子供に感染する事があります。思春期以降の感染では急性肝炎を来しその後治癒することが多いのですが、幼少時の感染などが原因でHBVが肝臓内に存在し続ける場合があります。この場合、全身のだるさなど何らかの症状を感じる人もいれば、全く自覚症状がない人もおり、中には採血しても肝機能検査で全く異常が見つからない人もいます。ただし無症状であっても知らない間に肝臓が傷んで肝硬変になっていたり、一旦治ったと思われても肝臓内に潜んだHBVが肝臓の中でがんをつくったりする事があるのが慢性HBV感染の恐ろしいところです。

HBV感染の有無は通常は採血で血液中のHBs抗原を調べる事で知ることができます。治療法は年齢や肝臓の状態によりさまざまですが、インターフェロンを注射したり経口抗HBV薬を用いてHBVの勢いをそいで、病気の進行を抑制したり肝がんの発症を抑えるようにします。ただしHBVを体内から完全に取り除く事はできず、治療が成功しても引き続き定期的な肝臓のチェックが必要です。

## C型肝炎

C型肝炎はC型肝炎ウイルス（HCV）の感染によって起こってきます。HCVに感染した方のほとんどは最初は無症状です。しかしその7割近くで感染が持続し、慢性肝炎、肝硬変、肝がんへの病気が進行していきます。C型慢性肝炎ではその後20年で3～4割の方が肝硬変となるとされています。さらにこれらの方の中から1年当たり7%程度が肝がんになる事が判っています。

HCV感染は血液検査でHCV抗体を測定することで始まります。C型慢性肝炎に対する根本的な治療法はインターフェロン治療ですが、治療効果を高めるためにリビリンという経口薬を併用する場合があります。ただし患者さんの状態によっては身体に負担のかかる治療を避けて、肝臓を庇護する薬や栄養補充のための薬を使用することも稀

ではありません。また肝がんを発病する危険も高いため、定期的な肝臓の検査（腹部超音波検査、CT、MRI、採血など）が必要です。

## 肝炎医療費助成制度

HBVやHCV感染の治療は長期間かかり、インターフェロンなど高額な薬を必要とするのが特徴です。このためインターフェロンや経口抗HBV薬にかかる医療費の一部を助成するための肝炎医療費助成制度がつくられています。（表2）

医療費助成の申請窓口は住んでおられる地域の保健福祉センターです。ただし助成期間が申請した月の初日から1年間であるため、慌てて申請すると肝心の治療を受ける時に助成が受けられない恐れがあります。申請する前に担当医と十分に相談しておくのが賢明でしょう。

	B型肝炎(HBV)	C型肝炎(HCV)
キャリア数	110~140万人	190~220万人
肝炎発症者数	約7万人	約37万人
内 訳	慢性肝炎 約5万人	慢性肝炎 約28万人
	肝硬変・肝がん 約2万人	肝硬変・肝がん 約9万人

表1. B型・C型肝炎感染者数。

キャリアとは肝炎ウィルスが体内に持続的に存在し続けている状態の人を表している。キャリア数は平成16年度厚生労働科学研究費補助金肝炎等克服緊急対策研究事業報告書（吉沢班）よりの推計。肝炎発症者数は平成20年度患者調査よりの推計。

世帯の市町村民税（所得割）課税年額*	自己負担限度額（月額）
235,000円以上	20,000円
235,000円未満	10,000円

表2. 肝炎医療費助成制度における自己負担限度額。

インターフェロン治療や経口HBV薬（核酸アナログ薬）による治療にかかる健康保険の自己負担分のうち上に書かれた自己負担限度額を超え、高額療養自己負担限度額までの部分が公費助成されます。\* 世帯の市町村民税とは住民票上の世帯を指します。しかし世帯員でも合算除外の申請ができる場合があります。

- 港区・保健福祉センター：〒552-8510 大阪市港区市岡1丁目15番25号
- 住之江区・保健福祉センター：〒559-8601 大阪市住之江区御崎3丁目1番17号

## 地域医療懇話会を開催しました

～第15回大阪船員保険病院地域医療懇話会～

去る6月25日(土)、弁天町のホテル大阪ベイタワーにて第15回地域医療懇話会を開催いたしました。今回で15回目を迎えました懇話会は、大阪市港区とその近隣の地域で開業されている先生方に当院のことを知っていただき、円滑な医療連携・地域への医療貢献を目的に毎年開催させていただいております。今年は港区を始め近隣地域の先生方33名にご出席をいただきました。大変ご多忙の中ご出席いただきましたことを深く御礼申し上げます。

第一部の診療紹介では「地域医療としての災害対策」と題しまして、東日本大震災直後、実際に現地岩手県にて診療活動をおこなった大澤整形外科部長による「震災直後の岩手県立宮古病院の救急医療状況について」を発表させていただきました。続いて特別講演といたしまして、大阪大学から医学系研究科救急医学、嶋田 岳士教授をお招きして「地域における災害医療対応」をご清聴いただきました。

災害時における医療機関の在り方や様々な問題点、今後予測される災害時の当院の対応について学べる大変貴重な時間をいただきました。当院の今後の課題とし努力する所存です。

第二部懇親会では短い時間ではありましたが先生方から直接色々なお話しをお伺いすることができ大変貴重な機会となりました。

これからも大阪船員保険病院は地域の先生方、皆様方に信頼される病院となるよう、院長以下職員一同、努力して参る所存でございます。

今後ともよろしく願いいたします。

地域医療連絡室

### 懇話会の様子



診療科講演  
整形外科部長 大澤 良之



特別講演  
大阪大学医学系研究科  
嶋田 岳士 教授



懇親会

発行

大阪船員保険病院／地域医療連絡室

〒552-0021 大阪市港区築港1-8-30

TEL 06-6572-5721(代表) FAX 06-6572-6713

[http://www.sempos.or.jp/ohsaka/renkei/renkei\\_tayori.html](http://www.sempos.or.jp/ohsaka/renkei/renkei_tayori.html)

